古文化

受け継がれる、日本屋根の伝統美。

第131号

大神神社 拝殿
［奈良県桜井市三輪］

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会

三輪明神 大神神社

［奈良県桜井市三輪］

由　緒

大和盆地の東南、円錐形の麗しい姿を見せる三輪山は古く三諸山とも称され、御祭神 倭大物主櫛魂命（以下大物主大神）が鎮まる御山として遥か昔より仰ぎ拝されてきました。当社の起源は『古事記』や『日本書紀』の神話に記されており、『古事記』では大物主大神が出雲の大国主神の前に顕れ、国作りを成就させる為に「吾をば倭の青垣、東の山の上に いつきまつれ」と三輪山に祀られることを望んだとあり、『日本書紀』でも同様の伝承が語られ、大物主大神は大国主神（大己貴神）の「幸魂・奇魂」であると明記されています。

この様に神話に創祀の委細が明瞭に記されていることは貴重なことで、御祭神の御神格が如何に高かったかを物語っています。そして、当社は御本殿を設けず直接、三輪山に祈りを捧げる原初の神祭の様を今に伝えており、文献上は勿論のこと、その祭祀の姿からも我が国最古の神社と言い伝えられております。又、「大神」と記し「おおみわ」と訓むことからも格別の御神徳が窺われます。

三輪山

三輪山は近世には御留山（足を踏み留めてはならない山）とも呼称され、周囲は16km、標高467m、全山松杉檜に覆われた万緑の神域です。北麓からは巻向川が、南麓からは三輪川（初瀬川）が流れており、この２河川が合流する間の地域を水垣郷と称し、古来不浄を入れずとされる地とされてきました。特に重文拝殿（寛文４年・1664再建）奥の大宮川と活日川に挟まれた境内域は小水垣をなしており、この辺りは古来、禁足山と呼ばれてきた三輪山の中でも特に神聖視されてきた地であります。即ち拝殿奥正面の禁足地（御山）とを区切る場所には三ツ鳥居（三輪鳥居）が建っており、参詣の人々は古来よりこの鳥居を通して御山を拝んで参りました。

神社のご神体である「三輪山」

三ツ鳥居（国重要文化財）

三ツ鳥居は当神社の特色の一つとされ、いつ頃どのようにして成立したかは不詳ですが社蔵文書には「古来一社の神秘なり」と記されており、御本殿にかわるものとして特に祭祀と信仰の上からも尊崇されてきました。絵図では室町時代の記録が最も古く、調査による敷石の様相から平安時代に遡るとも考えられます。

明神型の鳥居３つを１つに組み合わせた特殊な形状で、中央鳥居の高さは3.7m、左右脇鳥居の高さは2.7m、その両脇には計16間（南側７間・北側９間）の瑞垣が設けられ、勝れた木彫りの欄間がはめ込まれています。欄間は拝殿再建時の寛文４年以前の物も含まれると考えられますが、現在の鳥居は明治16年から17年にかけての再建であり、その時に後補したものも多くあります。中央には御扉があり、本殿の役割を果たしています。

禁足山と拝殿を区切る結界「三ツ鳥居」の模型

拝　殿（国重要文化財）※表紙写真

当神社は古来本殿を設けず、拝殿が特に重要視されてきました。現在の拝殿は寛文４年（1664）、徳川四代将軍家綱公が再建したもので、その技術が優秀なため重要文化財に指定されています。西向きに建ち、桁行２ｍ、梁行７ｍで、正面に5.5ｍ一面の唐破風造の大向拝がついています。拝殿の内部正面の両側には神饌物を献る御棚が設けられています。

この拝殿の左右に渡廊下を通じて２つの建物があります。向って右手の御殿を勅使殿といい、その昔宮中から勅使がみえた場合、この御殿で休憩したものであります。また、向って左側の御殿は、勤番所といい、勅使殿、勤番所共に県の文化財となっています。

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

【第22回】● 令和５年６月５日（月）～10日（土）／２名（茅葺師）

【第23回】● 令和５年10月２日（月）～７日（土）／２名（檜皮葺師）、２名（茅葺師）

［会場●山南ふるさと文化財の森センター］

本年度は２回の実施で、茅４名、檜皮２名の受検者６名となりました。茅葺の施工では流れるように手順よく、精度の高い仕上がりになったと思います。各講師来賓の皆様からの採点でも大きく減点される項目はなく、概ね好評でした。学科試験についても計算問題などは正解率が高く、責任者としては申し分ない成績の受検者が多く、１名のみ学科再受検とはなりましたが、実技は全員合格点となりました。

一方、檜皮葺については、収まりや線、水切りの取り付け、裏板の取り付けなどについて各採点者より厳しい評価が相次ぎました。学科試験においても基本的な間違いがいくつか見られ、必要材料数の算出など責任者としてはおぼつかない足取りであったため、残念ながら２名とも再度受検を求めることとなりました。

検定会会場風景

軒切りに取り組む檜皮葺きの受検生

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

日　時 ● 令和５年11月24日（金）10：00～12：00
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度も、京都女子大学より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、更新講習会を行いました。多くの更新者が参加し、屋根葺士15名の更新を行いました。

講習参加者は鶴岡様の講義に関心を持って聞き入り、質問する姿も見受けられました。特に屋根の腐食原因の変化や耐久年数の変化について、報告や意見交換が多く行われました。

近年は気象による突発的な状況が増え、屋根が受ける被害も軽傷ではありません。今後、環境の変化に耐えられる屋根を作り上げるために、屋根葺士も常に新たな学びや実績を積み上げることが求められているように思います。

保存会としても、主任技術者のさらなる意識向上と地位向上、技術向上のため、講習会を通じて新しい知見を身に付けられるよう努力していきたいと思います。

令和５年度
檜皮採取者（原皮師）中級研修

令和５年度の檜皮採取中級研修は、８月28日（月）の鞍馬山国有林から始まり、岡山個人林、権現山国有林、賤母国有林、仏通寺国有林、八坂国有林、城山国有林、千石谷市有林、栃本市有林にて全14クールの研修を行い、１月19日（金）に終了しました。

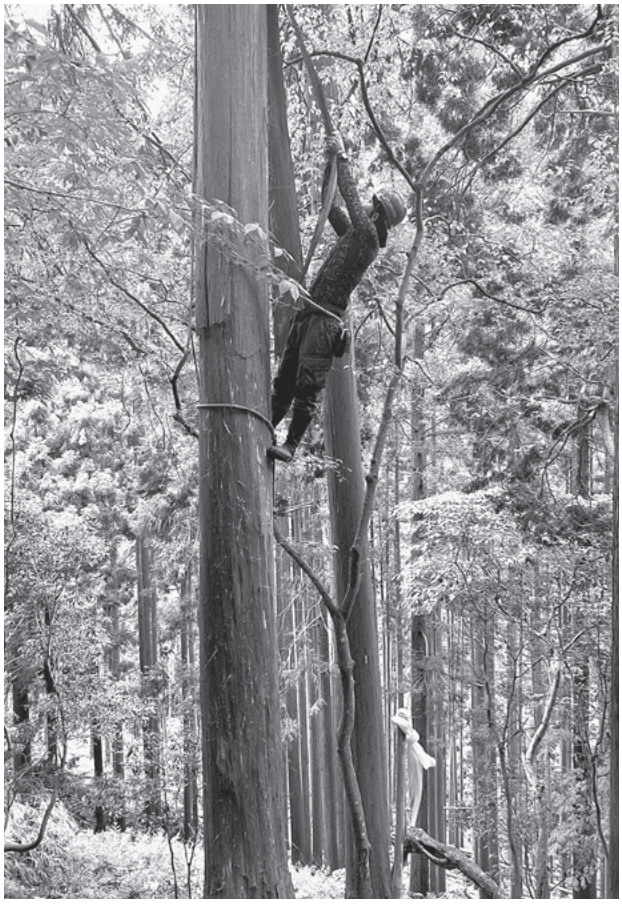
１クール２週間で入山し、限られた時間の中での作業になります。普段はともに山に入ることのない研修生たちですが、研修中は切磋琢磨し、より良い研修になっていると思います。

本年度も研修林を提供していただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

形状を確認しながらのヘラ入れ（千石谷私有林）

檜皮揃え（岡山個人林）

檜皮の結束（鞍馬山国有林）


ぶり縄を用いた檜皮の剥きあげ（鞍馬山国有林）

檜皮の切断（岡山個人林）

１丸単位に再結束された丸皮の集積（岡山個人林）

令和5年度
檜皮採取見学会

会　　場 ● 鞍馬山国有林（京都府）、権現山国有林（和歌山県）、賤母国有林（長野県）
期　　日 ● 令和５年9月13日（水）、9月15日（金）、10月23日（月）、11月21日（火）、11月29日（水）、12月４日（月）
参加団体 ● 京都大阪森林管理事務所 森林総合研究所、文化庁、和歌山森林管理署、長野県林業大学校、南木曽小学校、南木曽町議会

本年度も各地にて檜皮採取見学会を行いました。檜皮採取の技法を見て、触れる場を提供し、日本の伝統技術・文化財を身近に感じていただく取り組みとして、原皮師を講師に毎年のように見学会を行っています。

皆様には、研修場所までの山中を15～30分ほど歩いていただき、現場にて檜皮採取作業を見学してもらいます。檜から皮を採取することは大変な作業になりますが、採取した檜皮をその日のうちに持って降りることも考えると、原皮師の日々の仕事がいかに厳しいかということを少しばかり感じていただけたかと思います。

今後も、檜皮採取見学会を通じて日本の技を知って感じてもらえるよう、継続してまいります。

鞍馬山国有林

●京都大阪森林管理事務所 森林総合研究所
9月13日（水）

斜面から作業を見守る森林総合研究所参加者

●文化庁　9月15日（金）

檜皮を手操りながら引き剥がす技に注目する文化庁参加者

一連の作業を見守る文化庁参加者

賤母国有林

●長野県林業大学校　11月21日（火）

山林内で檜皮採取作業の説明を受ける長野県林業大学生

結束した檜皮の切断を見守る長野県林業大学生

●南木曽小学校　11月29日（水）

檜皮を剥きあげる作業を興味深く見つめる南木曽小学生

実際に檜皮を手に取り感触を確かめる南木曽小学生

ぶり縄に興味を持つ南木曽小学生

●南木曽町議会　12月4日（月）

見学場所まで山道を登る南木曽町議会の参加者

原皮師の剥きあげに見入る南木曽町議会の参加者

令和5年度
第3回 指導者,準会員合同研修会

期　間 ● 令和５年11月27日（月）～28日（火）
会　場 ● 賤母国有林（長野県木曽郡）、南木曽会館（長野県木曽郡南木曾町）、赤沢自然休養林（長野県木曽郡上松町）
協　力 ● 南木曽町、林野庁 中部森林管理局、中部森林管理局 木曽森林ふれあい推進センター、木曽森林管理署、木曽森林管理署南木曽支署

今回の「指導者，準会員合同研修会」は、長野県木曽郡で開催致しました。当日は29名の参加があり、賤母国有林にて採取研修生３名による採取の実演を行いました。木のヘラ1本、ぶり縄とナタを用いて檜皮を採取する様子を見学し、その後南木曽会館にて、中部森林管理局 総務企画部総務課 森林総合監理士 井上 日呂登様による絵巻物「木曽式伐木運材図会」についての講話をいただき、続いて、当会採取担当理事の河村 雅史から「賤母国有林のあゆみ」について講話を行いました。

２日目は日本三大美林の一つとされる赤沢自然休養林にて、中部森林管理局 木曽森林ふれあい推進センター自然再生指導員 大久保 秀一様に解説していただきながら見学しました。

井上 日呂登様による講話

採取研修生３名による採取実演見学

「赤沢自然休養林」見学会

実演見学　「賤母国有林」　1日目

説明・解説 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　指導員　**大野 浩二**

講 話 会　「南木曽会館」

講　　話 ● 中部森林管理局　総務企画部総務課　森林総合監理士　**井上 日呂登 様**
題目「木曽式伐木運材図会」について

講　　話 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　採取担当理事　**河村 雅史**
題目「賤母国有林のあゆみ」について

見 学 会　「赤沢自然休養林」　2日目

解　　説 ● 中部森林管理局木曽森林ふれあい推進センター　自然再生指導員　**大久保 秀一 様**

令和５年度
屋根板製作者養成研修

期　間 ● 令和５年９月25日（月）～10月５日（木）
講　師 ● **栗山　弘忠**（栗山木工㈲）

屋根板製作選定保存技術の保存団体として、平成30年に認定を受けたことを契機に平成31年度より屋根板製作者養成研修を開始しました。今年度は研修生３名を対象に、栗山木工有限会社様の協力のもと実施いたしました。

杉材を用いて主に平板（1.0尺×1.0分）の製作工程を実習し、原木の見分け方、材の取り方、木取り方法の基本など実際に目で見ながら勉強しました。初めて目にすることなので皆、興味深く熱心に聞き入っていました。また、最初は慣れない作業に戸惑っていましたが、最終日に近付く頃には、少し慣れた様子で作業をしていました。

文化財建造物を保存していくうえで、良質な資材の確保は必要不可欠です。研修生にはこの研修を通じて、屋根板製作の大切さを理解し、良い経験にしていただきたいと思います。

来年以降も研修は続きます。この研修がいつまでも続くよう皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

講師より指導を受ける研修生

板へぎ作業をこなす研修生

令和５年度
茅葺中級研修

期　間● 令和５年６月26日（月）～７月１日（土）、９月７日（木）～25日（月）、10月９日（月）～14日（土）、
令和６年１月15日（月）～20日（土）
現　場● 茅葺／重要文化財 旧長谷川家住宅（新潟県長岡市）、みちのく民俗村 水車小屋（岩手県北上市）、舟井家住宅（大阪府河内長野市）
茅刈り／大室山（静岡県伊東市）

今年度は、６月26日（月）～７月１日（土）まで新潟県長岡市の重要文化財 旧長谷川家住宅において平葺きの研修、また、９月７日（木）～９月25日（月）まで岩手県北上市のみちのく民俗村 水車小屋の葺き替え研修、10月９日（月）～14日（土）まで大阪府河内長野市の舟井家住宅において軒付・平葺きの研修を行いました。

研修では、当会正会員 大西 謙之、準会員 佐藤 偉仁・樋口 隆がそれぞれ指導にあたりました。研修生は岐阜・大阪・栃木・新潟からの参加となりました。普段の活動地域とは異なる地方の屋根葺きは異なる手法を知るきっかけともなり、実りのある研修だったと思います。

また、１月15日（月）～20日（土）まで静岡県伊東市の大室山で行った茅刈り研修では、当会正会員 大西 謙之・水野 暁彦の指導のもと地域の皆様にもご協力いただき、今年も良質な茅が採取できました。今後に向けてより多く採取できるよう、採取範囲を拡張する整備も行いました。山焼きが行われる場所なので防火帯整備も行いました。

重要文化財 旧長谷川家住宅

講　師●**樋口　隆**（㈱越乃かやぶき）
研修生●２名／**山口 成貴**（田中社寺㈱）
余宮 祥平（㈲大西茅葺）

安全確認・研修内容確認

結束方法・緊結確認

鉾竹の取付け

みちのく民俗村 水車小屋

講　師●**佐藤 偉仁**（㈲熊谷産業）
研修生●１名／**中島　信**（㈱茅葺屋根保存協会）

屋根地補修

軒付け

平面仕上げ

舟井家住宅

講　師●**大西 謙之**（㈲大西茅葺）
研修生●２名／**藤原　優**（㈱越乃かやぶき）
猿橋 成博（㈱茅葺屋根保存協会）

軒付け

平葺

大室山　茅刈り

講　師●**大西 謙之**（㈲大西茅葺）
水野 暁彦（㈱茅葺屋根保存協会）
研修生●５名／**新津 侑樹**（伝匠舎㈱石川工務所）
加々美 栄（伝匠舎㈱石川工務所）
八ッ橋 崇市郎（㈱越乃かやぶき）
吉澤 裕紀（(一社)日本茅葺き文化協会）
佐々田 元（(一社)日本茅葺き文化協会）

茅刈り

令和５年度
茅葺きフォーラム 開催

期　日 ● 見学会／令和５年９月19日（火）
　　協議会／令和５年９月20日（水）
会　場 ● みちのく民俗村 水車小屋
　　（岩手県北上市立花14-62-3）
　　北上市立博物館
　　（岩手県北上市立花14-59）

令和5年度中級技術研修の期間中に、現場見学会及び協議会を開催いたしました。今回は、みちのく民俗村 水車小屋の屋根を全面葺き替える研修でした。講師 佐藤偉仁の指導のもと、東北特有の屋根の葺き方を教わる機会に恵まれました。実技研修においては、東北地方特有の芝棟の収め方など、特殊な技術を学べる貴重な研修になりました。

一方、協議会では、建築装飾技術史研究所 所長 窪寺茂様、北上市立博物館 館長 渋谷 洋祐様にご講義をいただき、短い時間ではありましたが活発な議論ができました。講師と研修生によるパネルディスカッションも行われ、技術伝承の問題点なども議論となりました。

お話をいただきました窪寺様・渋谷様、総評をいただきました文化庁 文化財調査官の結城 啓司様をはじめ、開催に際しましてご協力を賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。

葺き替え前　みちのく民俗村 水車小屋

見 学 会　「みちのく民俗村　水車小屋」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　講師　**佐藤 偉仁**

協 議 会　「北上市立博物館」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**大野 浩二**

講　　義 ● 建築装飾技術史研究所　所長　**窪寺　茂 様**
　題目「屋根茅葺技術の伝統性を考える」

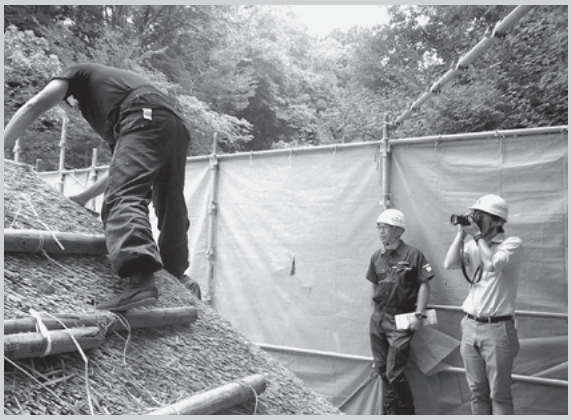
講　　義 ● 北上市立博物館　館長　**渋谷 洋祐 様**
　題目「盛岡藩領の家作をめぐる諸相」

討 論 会 ● 議題「東北の屋根と実技研修の内容・技術継承の問題点」
　進行者　公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　茅担当理事　**長﨑 貴宣**

総　　評 ● 文化庁 文化資源活用課　文化財調査官　**結城 啓司 様**

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　副会長　**友井 辰哉**

見学会



みちのく民俗村 水車小屋　見学会

葺き替え後　みちのく民俗村 水車小屋

協議会

建築装飾技術史研究所 所長 窪寺 茂様

北上市立博物館 館長 渋谷 洋祐様

文化庁 文化資源活用課 文化財調査官 結城 啓司様

講義風景

討論会風景

令和5年度
文化財研修会

日　時 ● 令和６年１月22日（月）13:00～17:00
会　場 ● 桂離宮
（京都市西京区桂御園）
京都リサーチパーク
（京都市下京区中堂寺南町134）

この度は京都市にある桂離宮を見学させていただきました。今回も全国から遠路はるばる正・準会員約70名の参加がありました。

桂離宮は江戸時代初期に八条宮智仁親王と智忠親王親子が約50年の歳月を費やして完成させた「日本庭園の最高傑作」との呼び声も高い回遊式日本庭園です。

建物や背景、由来や歴史などの説明を受けながら見学をさせていただきました。自然の景観を意匠として建物に取り入れ、尚且つ遊び心に溢れた技巧の数々は現代であっても非常に美しく新鮮に写りました。

次に、場所を京都リサーチパークに移して、京都女子大学名誉教授の斎藤 英俊様に講義をしていただき、改めて桂離宮にまつわる文化や意匠などを詳しく教えていただきました。そこにまつわる歴史や人間関係、色々な変遷を経て今この姿で残っている桂離宮という素晴らしい庭園。これらの存続に我々も力になれる様より一層精進していきたいと思います。

約半日の短い時間であり、また途中で移動も含めたタイトなスケジュールであったにもかかわらず、皆様の御協力のもと無事研修会を終えることができ非常に感謝しています。今年度は従来と違い工事中の現場見学という形ではありませんでしたが、今回のように庭園の一部として建物を観るというのは興味深く非常に良い経験ができたと感じています。

今年もこのような研修会を行うことができ、講義を行なっていただいた京都女子大学名誉教授の斎藤 英俊様、参加くださった当保存会の正・準会員の皆様、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

見 学 会　「桂離宮」

研 修 会　「京都リサーチパーク」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**大野 浩二**

講　　義 ● 京都女子大学　名誉教授　**斎藤 英俊 様**
題目「桂離宮の文化的背景と意匠」

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　執行理事　**友井 辰哉**

文化財研修会 参加者一同

京都女子大学 名誉教授 斎藤 英俊様の講義

京都リサーチパークでの講義風景

京都女子大学・奈良女子大学・立命館大学 課外講義を実施

期　日 ● 立命館大学／令和５年７月15日（土）
奈良女子大学／令和５年11月９日（木）
京都女子大学／令和５年11月29日（水）、
12月６日（水）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

毎年、京都研修センターに学生を招き、課外講義を実施しています。選定保存技術の意味と当保存会の成り立ちや文化財修理に関する現状などをお伝えした後、京都研修センターの実習室で、実演の見学と体験をしていただき、展示物の説明なども行いました。さらに、日本の選定保存技術と自然との関わり合い、日本の歴史との関連について講義しました。我々の技術は自然と共にあるという内容について特に細かく説明をいたしました。興味をもって聞いてもらえたように思います。

また、文化財防災に関する各国の専門家を交えて行われる、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修の一環として、立命館大学 歴史都市防災研究所から講義の依頼を受けたため、伝統工匠の技について当保存会として説明をいたしました。各国の担当者からは、今後における文化財保護の課題や現在問題となっている点、文化財保護をこれからどのようにしていくのかなどについて踏み込んだ質問があり、ディスカッションは非常に盛り上がりを見せました。

展示物の説明を受ける京都女子大学生

竹釘打ちの体験をする京都女子大学生

檜皮拵えの実演を見学する奈良女子大学生

講義に真剣に耳を傾ける立命館大学生

令和5年度　ふるさと文化財の森システム推進事業「森が支える日本の技術　2023公開セミナー」開催

コロナ禍の影響を感じることも無くなり以前の活気が戻ったと感じる中、今年も2日間にわたり見学・体験会、講演会を執り行いました。

例年同様、清水寺境内においては、檜皮葺・皮切りの実演見学・竹釘打ち体験に加え茅葺の実演とDVDの上映などの催しを行いました。また、京都市文化財建造物保存技術研修センター内では、関西大学 環境都市工学部 建築学科 助教 西川 英佑様をお招きし、「建築構造学からみた我が国の伝統的木造建築」についての講演を行いました。国内外からの観光客も戻ってきており以前以上に活気を感じる2日間となり、来ていただいた方々に檜皮葺、柿葺、茅葺のことを少なからず感じていただけたのではないかと思っております。

さらに今年も滋賀県坂本の日吉大社にて檜皮採取の実演見学会を行いました。紅葉を目当てに多くの参拝者が通られる参道の木を剥かせていただいたこともあり、たくさんの方々に見てもらうことができました。下から見上げてもどこに人がいるのか分からないほど高く登る技術と技に、皆さん一様に多くの驚きと関心を寄せていただくことができたと思います。

中には檜皮採取や檜皮葺、柿葺、茅葺についてテレビ等で観たことがあるという人もいますが、実際の作業を直に見ることができる機会は中々ありません。そんな中、この様な実演を行っていくことで自ずと認知されていくことと期待します。これからもこの日本独自の技術を途絶えることなく残し、また、多くの人々が関心を持ってくださるように日々精進して参りたいと思います。

今年もこのような機会を与えていただき、関係者の皆様にはこの場をお借りして御礼を申し上げます。

清水寺境内 会場風景

名　　称● 令和５年度 ふるさと文化財の森システム推進事業「森が支える日本の技術 2023公開セミナー」
主　　催● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会
期　　日● 令和５年11月３・４日（金祝・土）、25日（土）、12月８日（金）
会　　場● 京都市文化財建造物保存技術研修センター（京都市東山区清水２丁目205-5）
清水寺 仁王門周辺（京都市東山区清水1-294）
日吉大社（滋賀県大津市坂本５丁目1-1）
共　　催● 京都市
後　　援● 京都府教育委員会、京都市教育委員会、林野庁 近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所、
公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益財団法人 京都古文化保存協会、
公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

開催内容

1、文化財を支える技術の公開

期　日 ● 令和５年11月３・４日（金祝・土）
会　場 ● 清水寺境内
京都市文化財建造物保存技術研修センター

（1）伝統技術の実演「ユネスコ世界無形文化遺産登録 伝統建築工匠の技」

1. 檜皮葺
2. 皮切り
3. 茅葺

檜皮葺実演

皮切り実演

茅葺実演

（2）体験コーナー
竹釘打ち

職人の技を身近に体感できる竹釘打ち体験

（3）パネル・道具展示
（現場修理写真や道具・模型の展示）

京都研修センターでのパネル展示

2、文化財講座

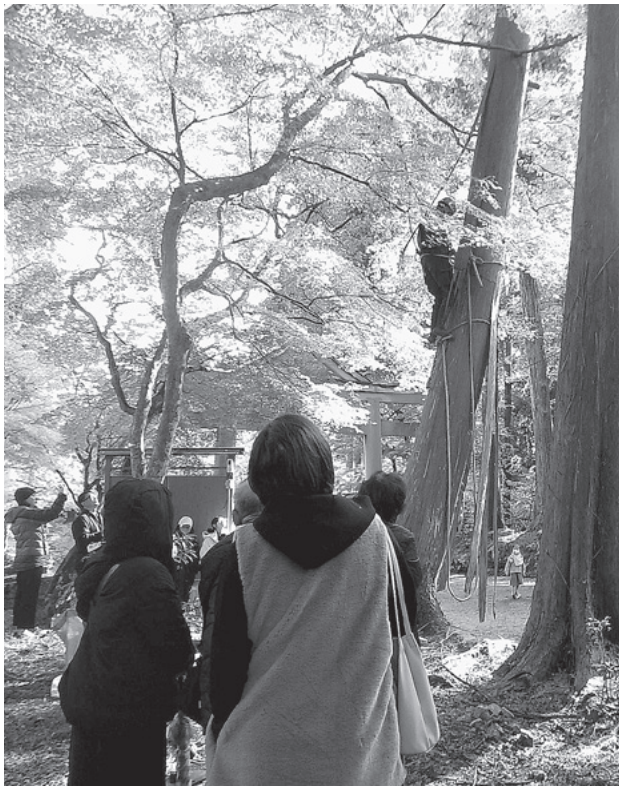
「建築構造学からみた我が国の伝統的木造建築」

期　日 ● 令和５年11月３日（金祝）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター
講　師 ● 関西大学 環境都市工学部 建築学科
助教 **西川 英佑** 様
対象者 ● 文化財修理に携わる者及び一般

講演風景

3、檜皮採取実演 見学会

期　日 ● 令和５年11月25日（土）
会　場 ● 日吉大社 境内林
対象者 ● 一般


檜皮採取の実演

檜皮に触れる見学者

4、関連事業・同時開催事業

資材育成に関する研修事業
（除伐作業や下刈り作業を通じて山林整備を学ぶ）

期　日 ● 令和５年12月８日（金）
会　場 ● 嵐山国有林（京都市右京区）
対象者 ● 文化財修理に携わる者及び一般

昨年に引き続き今年も、京都大阪森林管理事務所のご協力を得て、嵐山国有林にて除伐の作業を行いました。当日は秋晴れの中、多くの方々に参加していただくことができました。

今年の作業場所は昨年に続く所と、それよりも山を登った場所の２箇所で行いました。特に今年新たに除伐作業を行った場所は、川の対面にある天龍寺からよく見える場所であり、除伐によって保護された桜の木が育った後に広がる景色を想像しながらの作業となりました。このような地道な作業によって美しい景観がつくられていくのだということを再確認することができる貴重な体験でした。

お忙しいなかご参加いただいた皆様、またこのような機会を与えていただいた関係者の皆様方に御礼申し上げます。

除伐作業

文化庁移転記念
「日本の技フェア」開催

日　時 ● 令和５年11月18日（土）10：00～17：00
　　〃　11月19日（日）10：00～16：00
会　場 ● 京都市勧業館 みやこめっせ 第3展示場
　　（京都市左京区岡崎成勝寺町９番地の１）
主　催 ● 文化庁

本年度は文化庁の京都移転を記念し、発進拠点となる京都の「みやこめっせ」にて開催されました。３階での実施だったこともあり、人の波は少なく、来場者は以前に比べ控えめであったように感じました。

36の選定保存技術保存団体が参加し、団体ごとに設置された各ブースでは、紹介パネルや原材料・道具等の展示、熟練の技を披露する実演などが行われました。当保存会からは、軒切と屋根葺実演を行い、来場者には模型での屋根葺体験をしていただきました。先人から伝わる貴重な技術に大いに関心を持っていただき、多少なりとも文化財保存の大切さに理解を示していただけたのではないかと思います。

会場運営については来場者にもっと喜んでいただけるための改善点がさらにあるのではないかと思われますが、回を重ねるごとにスタッフ、理事ともゆとりができ、非常にスムーズな内容と展示ができました。協力してくださった関係者各位に感謝申し上げます。

興味深く、葺かれた檜皮を実際に触ってみる子供

屋根葺士による檜皮葺実演

技を体験できるブースが数多くあるので、この機会にチャレンジしてみては。

令和５年度
特別講座 開講（全２回）

第１回「ものづくり×コミュニケーション
～これからの教育に必要なもの～」

人形作家
三浦　孝裕

日　時 ● 令和５年９月２日（土）14：00～16：00
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

人形作家の三浦孝裕氏は、2005年より独学で人形の創作を始められ現在まで、制作・展示にとどまらず、「自分の言葉」で作品を表現してこられました。ご自身の半生を振り返りながら、これまでの経験から得た気づきを披露していただきました。

【講演内容要約】

ありのままでいられる出会い

今日はこちらに5人の人形を連れてきています。わが子のようにかわいく思って作っていますので、１体、２体と数えずに１人、２人と呼んでおります。

僕が人形作りを始めたのは34歳の終わりです。最初の１人目は、療養しながらですが、ほぼ１年ぐらいかけて作りました。１日18時間やり続けても何の苦痛もなく、好きなことを見つけたという感じでとても楽しく、少しずつ技術を磨いていきました。ただ、人形を作ろうと思ったときに、動くというのも立つというのも大前提にありました。この子たちは首と肩口と股関節の５か所でつながっています。全くの独学ですが、僕がしたい動きやしてみたかった物語性を表現できるように、毎回工夫を重ねているところです。

本日のテーマは、「ものづくり×コミュニケーション」です。皆さんには昔の思い出で、小さい頃のことやおじいちゃん、おばあちゃんのことなど、思い出してみるとすごく心地良いことってありますよね。けれども、情報が溢れている現代では、何かのきっかけがないと思い出せないのではないかということに思い至りました。もし、ここに居るこの子たちが、皆さんの心の扉を開くきっかけとなり、自分たちの中で大事にしていた何かが一つでも思い出せたら、次に繋がっていくのではないでしょうか。そこで、展示会にいらっしゃったお客さんのそばにいき、必ずお話しさせていただくことにしています。どんな記憶が思い出せたかということを共有したくて、そのようなスタイルを取らせていただいています。

人生の転機を乗り越えて

僕は以前、ハウスメーカーに就職し、島根県松江市で営業マンをしていました。当時の山陰地方では、木造家屋の比率は96％で、新しいプレハブ建築と言われるメーカーハウスのシェアはわずか４％程度でした。日本家屋とは、風をうまく取り入れ、太陽の熱を防ぐ工夫がされた構造で、夏を快適に過ごせるように知恵をうまく取り入れた設計が特徴です。一方、プレハブ建築には、24時間の換気システムが設けられ、できるだけ外の熱を家

記憶を、人を「つなぐ」、木の人形たち

の中に取り込まないような構造になっています。

その頃、僕は会社の寮に一人で住んでいました。24時間のうち寮に戻ってくるのは夜の9時ぐらいで、朝7時前には寮を出ます。その間、窓を多少は開けますけれどもエアコンを付け、それでも空気は入れ替わっているものだという認識を持っていました。

そもそも僕は家を売る営業をしたかったわけではなく、お客様と一緒に楽しく家を造り上げる仕事がしたかったのです。当然、家を建てるときには、家族構成やライフスタイルをお聞きしながら、まだ知識の乏しい大学を卒業したての僕が、世代の違う方々に向かって自分のうんちくを語り、家というかたちにしていくわけです。契約していただくまでは密接なお付き合いができるのですが、契約した途端に次のお客さんに向かわなければならなくなります。本当は、家が出来上がり住まわれるまではそばについて、色々なお話をお聞きしたいのに、それができないのはどうなのだろうと思っていました。

僕が化学物質過敏症を発症する直前に契約したお客様は、築150年の蔵のある立派な木造住宅を壊して、ハウスメーカーの建物に替えるというお話でした。息子さんが東京からお嫁さんを連れて戻られるのに、新しい家じゃないと嫌だというふうにおっしゃるから、仕方なく建て替えるのだとお話しされていました。それまでの僕は、家というのは希望通りにどうにでもなると思っていました。ところが、そのお客様から床柱や欄間を残したい、刻んだ柱は何かに使ってほしいなどの要望を伺っていたのに、4年目の僕は設計に通す力がなく、何一つ希望を叶えてあげることができませんでした。暮らしを組み立てていく家の仕事にすごく魅力を感じて、その業界でしか就職活動をしてこなかったのですが、入ってみると僕が楽しみたかった魅力の部分はほぼゼロに近い状態でした。毎週新しいお客様を探してこなければならない日常に精神的にやられていきました。

そして、僕の体が決定的に壊れたのは、化学物質過敏症でした。いよいよどうすることもできなくなり会社を辞めました。療養中、家を出られない期間が3年ほどありましたが、後に人形を作り始めるきっかけの一つとなったのが、この化学物質過敏症でした。

ただ、人形作りの最大のきっかけは、僕の父親が旅先で負った頸椎損傷という大けがで、寝たきりになったことです。すごく厳格な父親で、針灸接骨院を営み、自分の仕事に誇りを持っていましたが、病院には気弱になった父の姿しかありませんでした。人生とは、どの瞬間に何が起こり、どのように変化するのかは誰にも分からないことだと思います。自由にできることがあるのなら、今しておかなければならないと思いました。

評価せず、「したい」意欲を育てる

おしゃべりが好きな人でも、歳を重ねるごとに本心でしゃべることが難しいと感じていませんか。僕はものづくりをしていますが、一番したいことはお客さんとのコミュニケーションです。来てくださった方に何か一つでも温かいものを持って帰ってほしいからです。ただ、人形を展示しているだけでは、「かわいらしいね」とか「ようできてて器用やな」などの褒め言葉だけで、その先まで話を進めることはできません。それなら足りない部分を自分の口で語ろうと思い、作品展のときには、積極的にお客様とコミュニケーションを取るようにしました。妻が幼稚園の先生だということもコミュニケーションをとるきっかけの一つにあります。

そんな妻からのアドバイスもあって、自宅でアトリエ教室を開いています。妻が言うには、幼稚園で子供たちに絵を描かせると、大体同じような絵を描くのだそうです。それは、最初に先生が見本を見せてしまうからで、例えば、右向きのお魚を先生が黒板に描くと、8割以上の子供が右向きのお魚を紙いっぱいに1匹描くのです。幼稚園でも自分の自由な意志で制作する機会は限られているのだと感じました。

アトリエ教室に来る子供たちはみんな工作教室だと思って来ていますが、実は発表教室なのです。どんなものでもいいので作ってみて、それに対して自分の思いを伝える練習をしています。入会される子供たちの親御さんには、最初にこちらの思いをお伝えしています。よくあるアート教室や工作教室では、見本があって、キットや材料が用意され、描き方手順の指導があり、ほぼ遜色のな

自分の体でも扱える木の持つ生命感に魅せられた三浦氏

いものを描きあげるという流れになります。でも、僕たちがしたかった教室はその真逆でした。

子供たちの自由意志でやりたいようにやれる教室。それを実現するためには、お父さんやお母さん方の理解が必要です。出来上がる作品には当然値打ちがあるのですが、それは、その子供たちが試行錯誤して、自分のやりたいことを見つけ、その過程を楽しんでいるからで、それによって得た何かに焦点を当てて発表させています。90分あるうちの最後の30分は発表の時間です。自分が思っていることを相手に伝えて、返ってくる反応を受け止めるということを毎回繰り返すことで、自分の中の様々な感情を表に出し、自分の思いを言葉にできるようになるのです。

教室には幼稚園の年中さんから小学校５年生までいますが、発表が嫌いな子供は一人もいません。自分が作ったものに対して自分の気持ちを外に向けて発信できるというのは、ものすごく楽しいことだと思うのです。人に自分の気持ちを伝えて、それに対して何かしらの反応が返ってくると、充実感を覚えます。それは教室で子どもたちを見ていてよく分かります。僕が人形を作って、ただ展示するだけではなく、観にいらっしゃる方とコミュニケーションを取るのは結局、自分を受け入れてくれている人たちを僕自身もすごく欲しているからです。子供たちもそうだし、僕もそうなら、きっとたくさんの人がそうじゃないのかなと思います。

コミュニケーションがもたらすもの

コミュニケーションが育むものとして、「相手の話を聴くことと、言葉を選んで伝えること」というのがあります。まず先に話を聴く必要があるのです。相手が今何を思っているのか、できるだけたくさん聴くことがとても大事です。それができると、褒めるのが上手になります。その人の良いところを見つけてあげる。見つけることのできる技術というか、聞くうちに自分の感性みたいなものがたくさん出てくるのだと思います。

アトリエ教室で、ある子供が芋堀りの絵の中で手をとても長く描いたのです。その子供は発表するのを少し渋ったのですが、発表を促すと、「この絵には、僕が好きなところは一つもありません。手がめちゃくちゃ長いから嫌です」と言いました。それに対して他の子供たちからは、「手は確かに長いけれど、姿勢がめちゃくちゃいい」、「土の塗り方が上手」、「サツマイモのつながり方が本物みたいだ」と、その子供には見えていなかった他の部分がとてもいいと褒め、その子供はとても良い気分になりました。「この絵は嫌いだけど、僕が本当に好きなのは工作だから、次は工作を見てください」と言って発表を終えました。子供たちの様子を見ていると、「相手の話を聴くことと、言葉を選んで伝えること」以外に、「良いところを見つける視点を持つ」、「うまくいかない時こそ、何がしたくて、どう取り組んだかを伝える術を持つ」など、コミュニケーションが育むものが子供たちの中にたくさん生まれていると感じました。子供たちの自己肯定感はどんどん上がっていきます。

忘れたものを思い出させてくれる三浦氏のお言葉

押しつけではない、自分での気づき

令和元年「子供・若者白書」という内閣府の資料によると、日本人の自己肯定感は各国と比べて相当低いことがわかります。なぜこんなに低いのでしょうか。自己肯定感というのは、駄目な部分も含めてありのままの自分を受け入れている状態のことです。自己肯定感が低いと、評価を恐れて自分の考えや意見を表現できない状態になります。

自分がしたいことをさせてもらえていたのは一体いくつぐらいまでだったのか、ご自身の中で思い描けますか。僕は、小学校６年生までです。小学校６年生のときに挫折して、中学校からは自分のことが好きではなくなりました。本当はやりたいことがあったのに、「将来のためだから」と言われて勉強だけを一生懸命しました。大学の学部すら父親の意見に反論できず、自分で選ぶことができませんでした。何一つ楽しくなくて、大学生活のほとんどをバイトで過ごしてしまいました。

自己肯定感が低い理由の一つに学校教育もあると思っています。大学入学が最終目的になって、本当はやりたいことがある大事な時期に、高校・大学受験に向けた勉強だけをするのです。自分がしたいことが勉強ではない子供が、もっと早い段階からそれ以外のところを伸ばせるようになればいいのですが、子供たちのほとんどが勉強するしか道がないと誤認しているのです。親もそうで、僕もそうだったのです。例えば、もし僕が就職するときに、こういう伝統技術を継承するような仕事に就けることを知っていれば、そのような仕事を選んだでしょう。教室に来る子供たちの中にも、ピンポイントの夢を持っている子供はいます。もし、小学生や中学生のもっと早い段階からこういう道もあるということを認識できてい

今回の講座に興味を持ってご参加くださった皆様の受講風景

れば、自分のしたいことが見つかったり、もっと道が開けたり、自己肯定感の高い子供たちがたくさん出てくるのではないかと思います。

過程や独自性を評価する時代へ

人工知能AIの普及により、社会の構造や働き方が大きく変わっていくという話が出ています。同じ教育を受けた似たような考えの子供たちではなく、異分子の子供たちがたくさんいる方が、その業界やその仕事の将来は開けると思います。何かが淘汰されるときには、異分子がたくさんある種族の方が生き残ると言われています。日本の教育も変化が起こりつつあり、これからは多様性を持った子供たちが社会にたくさん出てくると思います。業界が生き残るためには、新たな技術革新や取り組み方、これまでにない風を吹き込んでくれるような子供たちに気付いてもらう必要があります。そのためには、受け手側がたくさんの情報発信をすることです。

こちらの保存会さんでも、体験会というのをやっていらっしゃるそうですね。教育現場で、早い時期から知る機会や体験学習などを行えば、日本の伝統工芸や伝統技術のような継承されなければならない仕事をもっと広めることができるのではないでしょうか。ぜひ、そのような提供の場を設けてもらいたいというのが、僕が今回お話しする中で一番してほしい、皆さんの「ものづくり×コミュニケーション」です。

最後に、これからの教育に必要なことを一つだけ言わせてください。「チャレンジ精神」と「問題提起できる力」を付けるということです。これが何かというと、「根拠のない自信」です。自己肯定感が上がれば身に付いていくものが、「根拠のない自信」です。「どうなるか分からないけど、まあやってみるわ」というように思えるのは、自己肯定感が高い状態です。そのためには、出来上がったものの完成度に対して、一方的な評価はしないということです。その過程や取り組み方、どういう考えでしてきたのかというところを踏まえて評価していくことが大切だと思います。

［講演を終えて］

本日の講演で印象に残っているのは、大人からの働きかけをやめて、子供が自ら抱いた意思で自由に表現させることが大事だということです。アトリエ教室に来ているということで、こういったものを作らなければならない、作ってほしいという、特に親の要望やエゴに子供が引きこまれないように自由に制作させるということ。その中にあって子供は回を重ねるごとにプレゼンが上達し、表現方法が次第に洗練されていくという内容でした。

三浦様との後述で出た話ですが、本田技研工業創業者、本田宗一郎氏の「どうして成功したか」という問いかけに対しての言葉に、『近代の日本の発展を考えてみると、日本人を一生懸命にさせたのは、上の人の小言が無かったから。戦後、マッカーサーが上の人を全部パージして、財閥も解体した。誰も文句を言う人がいなくなった。だから自分が思う事を精いっぱいやれた。命令されて仕事をしたんじゃないということ。これが高度経済成長を支えた。そろそろ僕らみたいな指導者が早く辞めないと』という示唆深い内容がありました。「若者に思いっきりやらせる」と言うことに集約されたホンダの真髄と非常に似ている部分を感じます。若い人に思いっきりやらせることの重要性、これが特に感じられた講演でした。本日は貴重なお話をありがとうございました。

※令和6年2月24日（土）に開催いたしました「第2回 特別講座」の掲載は、次号となります。

三浦（みうら） 孝裕（たかひろ） 氏 プロフィール

昭和46年（1971）、大阪府堺市生まれ、同在住。
関西大学卒業後、ハウスメーカーに勤めるが、重度の化学物質過敏症を患い退職。
伝統的な木造建築への思いが原点となって木彫の人形を創作し、空間演出にも取り組む。
国立大学法人 大阪教育大学で美術教育の講師を勤める。アトリエ「発想表現教室」を主宰。
自由な制作と、自分の言葉で作品を「表現」することを大切にしている。

平成18年（2006） **第11回「家庭画報大賞」手作り作品部門 優秀賞 受賞**
令和 5 年（2023） **第4回「日本写真絵本大賞」ポエム賞 受賞**

令和５年度
「京都研修センター」利用実績のご紹介

今年度、「京都市文化財建造物保存技術研修センター」では、全国社寺等屋根工事技術保存会以外の団体様にも様々な講義やイベント、会議等で施設をご利用をいただきました。

当センターにて匠の技を体験していただくことや展示室をご見学いただくことで、当会の活動をより多くの方に知っていただくきっかけとなりました。

●利用実績

【令和５年】

［６月］ ●一般社団法人 文化財修理技術保存連盟　「代表者会議」

［７月］ ●一般社団法人 文化財修理技術保存連盟　「準備委員会」

●立命館大学「文化遺産の保護と活用」受講生　「講義・体験」

●株式会社エデュワーク　「講義・体験イベント」

［８月］ ●文化庁 文化資源活用課支援係　「主任技術者講習会」

［９月］ ●一般財団法人 全国伝統建具技術保存会　「令和５年度　第１回技術者養成講座」

●立命館大学　歴史都市防災研究所　「ユネスコ・チェア　講義・体験・ワークショップ」

●一般社団法人 文化財修理技術保存連盟　「代表者会議　他」

● 文化財畳保存会　「設立総会」

［11 月］ ●京都橘大学　「講義・体験」

●奈良女子大学　「講義・体験」

●京都女子大学　「講義・体験」

［12 月］ ●京都女子大学　「講義・体験」

●一般財団法人 全国伝統建具技術保存会　「令和５年度　第２回技術者養成講座」

●一般社団法人 文化財修理技術保存連盟　「制度委員会・広報委員会」

●荒川化学工業（株）経営企画部　「社外広報誌取材」

～　GoGo 土曜塾　体験イベント（京都市広報による親子イベント）　～

株式会社エデュワークの体験イベント

株式会社エデュワークの体験イベント

京都女子大学の講義・体験

奈良女子大学の講義・体験

【令和６年】

［**1月**］ ●一般社団法人 文化財修理技術保存連盟　「理事会」

～　第 27 回京都ミュージアムロード　参加　～

［**2月**］ ●伝統工芸と京をガイドする会　「総会・講義」

●浮世絵木版画彫摺技術保存協会　「令和５年度京都研修会」

●一般財団法人 全国伝統建具技術保存会　「令和５年度　第３回技術者養成講座」

●小浜市ふるさと文化財の森センター　「茅葺き屋根等の現状研修」

立命館大学 歴史都市防災研究所のワークショップ

立命館大学 歴史都市防災研究所の体験

立命館大学 歴史都市防災研究所の見学・体験

あとがき

令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生し、日本海側の広い範囲に津波が到達しました。家屋の倒壊や火災、土砂崩れなどにより多くの方々の命が失われました。地震大国である日本に暮らしている以上、震災は避けては通れないことですから、いざという時のために日頃から備えておかなければならないと改めて思いました。

被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆様には、安全に留意されご活躍されることをお祈り申し上げます。

また、今年度も当保存会活動にご協力いただきました皆様に御礼を申し上げます。来年度もご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

発　行　所
京都市東山区清水二丁目 205-5
京都市文化財建造物保存技術研修センター内

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
http://www.shajiyane-japan.org

古文化 第131号
令和 6 年 2 月 29 日発行

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

■ ふ る さ と 探 訪 ■

河村 雅史さんの古里

「穴太衆（あのうしゅう）」石積みの町

（滋賀県大津市坂本）

比叡山の門前町である滋賀県大津市坂本は「石積みの里」として知られ、町のあちこちで大小の石垣を見ることができる。同町穴太（あのう）地区は戦国時代に名をはせた伝説的石工職人集団「穴太衆」の本拠地なのだ。彼らの卓越した石積み技術は全国の城の石垣に影響を与え、織田信長も安土城築城に際して多数の穴太衆を召し抱えたという。

石垣は金具などで留められているわけではなく、単に石を積み重ねているだけの構造だ。天守台の場合その上に何千トンもの重量がある天守閣を乗せているのである。数百年の時が流れた現在までに何度も地震や豪雨に見舞われながら崩れもせず、築城時そのままの形で機能し続けているとは考えてみれば不思議な話だ。

中でも穴太衆が得意とした野面積（のづらづみ）は自然にある石を加工しないまま積み上げたもので、原始的とも見えるが極めて堅牢なことで知られる。江戸時代には加工した石を使う「打ち込みハギ」「切りこみハギ」が登場した。四角く割った石を積み重ねるので見た目が美しく高く積み上げることができる。一方で隙間なく重ねられた石は排水や加重の分散に難があり、耐久性においてはむしろ野面積が勝るといわれる。

とはいえ、野面積には欠点もある。二つとして同じものがない自然石をそのまま使うので、マニュアル（手引書）というものを作れないのだ。形も大きさも異なる石を目的の高さまで積み上げる技術は現場で継承していくしかない。名人と呼ばれる石工は現場を見て必要と思える数量の石を用意し、実際に積み重ねていくと全ての石が必要な場所に収まって余ることがないという。

坂本の町で見られる石垣に使われている石には、四角くかしこまったものもあれば何だか形がひねくれたもの、奇妙な色柄をしたものが混在している。様々な石がひしめき合う様は老若男女入り混じって暮らす人間社会を見るようだ。

城郭のような石垣に囲まれた大津市坂本にある盛安寺（せいあんじ）

（文・イラスト　米林　真）

古文化

第131号

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会